

平成25年度事業評価

《 2次評価【理事会による評価】 》

【24年度事業の評価】	A 大変良い(大いにある)	B 良い(ある)
	C ふつう(少しある)	D 良くない(ない)
【今後の方向性】	a 拡大	b 継続
	c 一部見直し	d 見直し

(1) 市民文化の創造及び育成に関する事業

25年度事業 の評価	必要性	A	妥当性	B	効率性	B	有効性	A
評 価 説 明	<p>演劇や音楽を通じ劇場自ら創造発信する「厚木シアタープロジェクト事業」に重点を置き、あつぎ舞台アカデミー公演「ドリーム・ドリーム・ドリーム～season3～」を実施したほか、「ネクストステップ第4回公演 ミュージカル バイトショー」など8事業を実施した。</p> <p>本事業については、財団自らが発信する事業として、充実した内容が実施できたものと認められ、特に、あつぎ舞台アカデミーでは、子どもたち自らが参画するという事業目的を中心として、所期の目的を十分達成できたものと判断している。</p>							
今後の 方向性	b	あつぎ舞台アカデミーを主軸に現行事業の推進を図りながらも、今後の事業の在り方、展開等について研究を進める必要があると考える。						

(2) 市民文化の普及及び振興に関する事業

25年度事業 の評価	必要性	A	妥当性	B	効率性	A	有効性	B
評 価 説 明	<p>市民の運営による[厚木ジャズ祭]を開催したほか、「Sコンサート」や市内小中学校6校を訪問した「出前コンサート」など5事業を実施した。</p> <p>実施した5事業ともに盛況に開催できた。</p>							
今後の 方向性	a	現行事業の充実と、運営形態を踏襲しつつ、事業メニューの充実についても研究を進める必要があると考える。						

(3) 芸術文化の鑑賞機会の提供に関する事業

25年度事業の評価	必要性	A	妥当性	B	効率性	B	有効性	B
評価説明	<p>音楽、演劇、伝統芸能の公演や美術展等を開催し、優れた芸術文化の鑑賞機会を子どもから大人まで広く市民に提供するなど、幅広い事業を実施することができたものとする。</p> <p>しかしながら、いくつかの事業において参加率の低い状況が見られるため、公演内容も含めて検証する必要があると考える。</p>							
今後の方向性	b	<p>市民ニーズの把握に努め、質の高い舞台公演、展示会等の開催や誘致を目指す必要があると考える。</p>						

(4) 文化情報の収集及び提供に関する事業

25年度事業の評価	必要性	A	妥当性	B	効率性	B	有効性	B
評価説明	<p>厚木市文化会館で開催される公演情報を広く市民に提供するため、厚木市文化振興財団ニュース「ぶんか情報館」を昨年より1回増やし年5回発行し、市広報紙に折り込み市内全世帯、友の会会員へ配布した。また、「厚木市文化会館スケジュール」を毎月発行し、公共施設等を通して市民に配布するとともに、インターネットを利用した情報提供として、当財団ホームページに各種公演情報や施設利用案内等を掲載した。</p> <p>「ぶんか情報館」が重要な広告媒体であるため、今後も内容の充実を図る必要がある。</p>							
今後の方向性	a	<p>「ぶんか情報館」は財団最大の広報媒体として位置付けられることから、参加者増加により一層寄与するよう内容の充実を努める必要があると考える。</p>						

(5) 文化振興に関する調査研究に関する事業

24年度事業の評価	必要性	B	妥当性	C	効率性	A	有効性	B
評価説明	<p>事業計画の立案に資するため、自主事業開催の際に、参加者アンケートを実施しているが、各ジャンルへの関心の高い人が対象であるため偏りがあるため、結果については、慎重に分析する必要がある。</p>							
今後の方向性	b	<p>事業計画立案に当たり、確かな市民ニーズを把握する必要があるため、更に調査研究を進める。</p>						

(6) 市民の国際文化交流の促進に関する事業

25年度事業の評価	必要性	B	妥当性	B	効率性	C	有効性	B
評価説明	前年度は、予定していた事業が中止となってしまったが、当年度は、隔年で実施している「カナガワビエンナーレ国際児童画展」を開催し、子どもたちの国際理解に寄与した。							
今後の方向性	C	今後も、子どもたちの国際性を育む手段として、同様な事業は必要と考えるので、調査研究を進めていく。						

(7) 文化施設の管理運営の受託に関する事業

25年度事業の評価	必要性	A	妥当性	B	効率性	B	有効性	B
評価説明	厚木市文化会館の指定管理者として、利用者が各施設を最良の状態で利用できるよう施設の適正な管理運営を行うとともに、施設の老朽化に伴う修繕等の経費の増加が見込まれる中で、安全な施設管理と利用者のサービス向上に努めた。 また、財政状況も厳しい中、利用料金の安定的な確保に向けて、市と協力しながら調査研究をする必要があると考える。							
今後の方向性	b	安心安全な施設管理を基本に、利用率の向上に向けて、利用しやすい環境整備について研究を進めていく。						